

2027年度学生募集要項【大学院工学研究科】博士前期課程の変更について

令和8年6月10日
前橋工科大学

2027年度学生募集要項【大学院工学研究科】博士前期課程に変更がありましたので、次のとおり訂正します。

項目	変更後	変更前	ページ
博士前期課程 開設研究室 一覧	削除	<p>研究室名： オミックス情報処理研究室</p> <p>職名：教授</p> <p>教授名等：蒔田 由布子 E-mail：makita@maebashi-it.ac.jp</p> <p>研究内容： マルチオミックスデータと呼ばれる、ゲノムやその発現情報に代表されるシーケンスデータや、画像として蓄積されている形態表現型情報など、多彩なデータの組み合わせをコンピュータで解析することにより、分子生物学的理解を深めて行きます。特に植物や環境データに注目しており、生物と環境の相互作用を理解することで、農業への応用や環境保護への貢献を目指します。</p> <p>主要科目： 分子生物学の基礎 プログラミング言語・演習Ⅱ プログラミング言語・演習Ⅲ プログラミング言語・演習Ⅳ</p>	18ページ

Maebashi Institute of Technology

前橋工科大学

2027年度

学生募集要項

【大学院工学研究科】

博士前期課程

〒371-0816

群馬県前橋市上佐鳥町460番地1

前橋工科大学 学務課入試広報係

TEL 027-265-0111 (代表)

027-265-7361 (学務課入試広報係)

FAX 027-265-3837

E-Mail nyushi@maebashi-it.ac.jp

目 次

前橋工科大学大学院工学研究科（博士前期課程）の教育ポリシー 入学者受入方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針	1
1. 募集人員	2
2. 入試種別と日程等	2
3. 出願資格・要件	3
4. 出願資格審査	4
5. 出願	4
6. 入学検定料	5
7. 出願書類	5
8. 選考方法（試験科目及び試験内容）	8
9. 合否判定の方法及び基準	9
10. 試験日程	9
11. 試験会場	9
12. 合格発表	9
13. 入学手続	10
14. 外国語（英語）試験	11
15. 受験上の注意事項	11
16. 遅刻者の取扱いについて	12
17. 受験心得	12
18. 入学に係る経費	12
19. 障がい等への配慮を必要とする入学志願者の事前相談	13
20. 個人情報取扱い等	13
21. 前橋工科大学へのアクセス	14
博士前期課程開設研究室一覧	15

前橋工科大学大学院工学研究科（博士前期課程）の教育ポリシー

【入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

1 教育理念

現代社会が抱える様々な課題に対して、工学分野の知識を全体的に駆使しつつ解決しようとする情熱をもち、専門分野を深く掘り下げて修士（工学）学位を取得し、自立して社会において活躍する高度専門技術者や研究者を養成する。

2 求める学生像

本学で展開されている幅広い研究分野のいずれかに興味と基礎知識を持ち、専門分野を極める強い意欲を持っているとともに、専門の工学や技術の分野に関して、大学卒業者と同水準以上の知識や技能を持っている学生を求める。

3 評価の観点

希望する分野に関する専門知識を確認するため、提出された書類や口頭試問を含む面接、英語能力等を総合的に審査する。

4 入学前に修得しておくことが期待される知識の内容・基準

大学院での研究を遂行するために十分な専門基礎知識、研究活動に必要な英語能力、及びコミュニケーション能力を備えていることが期待される。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

1 各専門領域の特論や演習、各教員の専門を活かした特別研究における指導を通じて、自らの専門分野について十分な知識・技術を養う教育を行う。

2 広範な分野の教員が所属することを活かしながら、共通科目やコース横断科目の履修を通じて、自らの専門領域にとらわれず、統合的に学ぶ力を養う教育を行う。

3 自らの専門分野の学びと分野横断した統合的な学びを通じて、多様に展開する諸課題を総合的に捉え、未知の領域にも挑戦する力を養う教育を行う。

4 学内外での発表の機会を通じて、修士論文の成果を背景の異なる研究者に説得力を持って発表するコミュニケーション能力を養う教育を行う。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

本専攻の広範な学術領域で、i) 各専門分野について十分な知識・技術を得ること、ii) その周辺分野について統合的な学びを修めること、iii) その学びを活かし、様々な課題を適確に捉えて、研究を実施すること、iv) 修士論文の最終試験に合格し、その成果を背景の異なる研究者に説得力を持って発表する能力があること。以上4つの力を身につけた者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 募集人員

専攻	コース	入試種別	募集人員
環境・生命工学	社会基盤・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者選抜 ・一般選抜 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生特別選抜 	50人
	建築・デザイン		
	数理情報生命科学		
	生体・情報・システム工学		
	バイオテクノロジー		

上記各コースの募集人員は、全ての日程区分や入試種別による人員を含んだ合計数です。7月日程における入試での入学手続者数により、2月日程における入試での募集人員が少なくなることがありますので、2月日程の募集人員については、本学ホームページで確認してください。

志願者は、15ページ以降の開設研究室一覧を参考に、研究内容をよく理解した上で、必ず、あらかじめ指導教員と連絡を取り、出願することの承諾を得ておいてください。

2. 入試種別と日程等

日程	【7月日程】	【2月日程】
入試種別	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者選抜 ・一般選抜 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生特別選抜 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者選抜 ・一般選抜 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生特別選抜（在留者）
出願資格審査書類提出期間 (該当者のみ) (P.4参照)	2026年 5月18日 ∩ 2026年 5月22日	2026年11月9日 ∩ 2026年11月13日
証明書の原本が日本語又は英語以外の場合の確認期間 (P.5参照)	2026年 5月25日 ∩ 2026年 5月29日	2026年11月24日 ∩ 2026年11月30日
出願期間	2026年 6月22日 ∩ 2026年 6月26日	2027年 1月8日 ∩ 2027年 1月15日
試験場	前橋工科大学	
試験日	2026年 7月12日	2027年 2月 7日
合格発表日	2026年 7月27日	2027年 2月19日
入学手続期限	2026年 8月 7日	2027年 3月5日

3. 出願資格・要件

出願資格は、次のとおりです。

○進学者選抜

- (1) 2026年9月に本学工学部を卒業した者及び卒業見込みの者
- (2) 2027年3月に本学工学部を卒業見込みの者

○一般選抜

次のいずれか一つに該当する者とする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条の大学を卒業した者及び2027年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び2027年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了し、学士号を取得した者（施行規則第155条第1項第2号）及び2027年3月までに取得見込みの者。又は外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第155条第1項第4号の2）及び2027年3月までに授与見込みの者
※国外の3年制専科大学卒業者は、日本における短期大学卒業者と同等とみなされ、一般選抜での出願資格はありません。この場合は、下記の外国人留学生特別選抜(4)②での出願を検討してください。
※国外の4年制大学を修了している者で学士の学位を持たない者は、4 「出願資格審査」の対象となります。
- (4) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- (5) 本学大学院における個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

○社会人特別選抜

一般選抜の出願資格に該当し、（ただし、見込みの者は除く。）かつ、2027年3月31日までに常勤・非常勤を問わず1年以上の社会的経験（企業・官公庁・教育機関等での就業。家事従事等の経験を含む。）を有する者又は有する見込みの者。

○外国人留学生特別選抜

次に示す条件(1)～(4)のすべてに該当する者

- (1) 日本国籍を有しない者
 - (2) 7月日程では、次の①該当者又は②、③該当者及び2月日程では、次の①該当者
 - ① 出入国管理及び難民認定法において大学入学に支障のない在留資格を有する者
 - ② 出願から入学手続まで責任を持って手続を行う日本に居住する代理人を有する者
 - ③ 出入国管理及び難民認定法において大学入学に支障のない在留資格を取得できる者
 - (3) 日本語能力試験のN2レベル以上を取得している者
 - (4) 次の各号のいずれかに該当する者
 - ① 一般選抜の条件(3)
 - ② 大学卒業までに16年を要しない国からの外国人留学生であって、次の全ての条件を満たし、かつ、本大学院が日本国内の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - i 大学教育修了後日本国内又は外国の大学、国立大学共同利用研究機関等これに準ずる研究機関において、研究生あるいは研究員として1年以上研究に従事した者及び2027年3月31日までに1年以上研究に従事する見込みの者
 - ii 2027年3月31日までに満22歳に達する者
- ※なお、ここに示した(4)②によって出願する者は、「出願資格審査」の手続を行ってください。

4. 出願資格審査

「**3. 出願資格・要件**の一般選抜(5)又は外国人留学生特別選抜(4)②」に基づき出願する者は、次のとおり出願前に審査を受けてください。

(1) 提出期間

【7月日程】2026年5月18日（月）～5月22日（金）

【2月日程】2026年11月16日（月）～11月20日（金）

(2) 提出方法

①郵送の場合は、必ず速達の簡易書留で郵送してください。

②持参の場合の受付時間

土日祝日を除く9時00分～12時30分及び13時30分～17時00分です。

(3) 提出書類

①出願資格審査申請書

②出願資格審査調書（経歴書を含む。）

③志望理由書

④研究計画書

⑤成績証明書

⑥卒業を証する書類

⑦国籍及び在留資格等を確認できる書類（外国籍の者）

⑧研究業績報告書（該当者）

⑨審査結果送付用封筒（長形3号の封筒に日本国内のあて先を明記し、定形郵便物（50gまで）＋速達分の送付用切手を貼付してください。）

※③、④、⑤、⑥、⑦については、「**7. 出願書類**」を参照してください。

【前橋工科大学で成績証明書、卒業を証する書類の原本証明を希望する場合】

事前に次頁5.（3）出願先まで連絡の上、原本証明を希望する証明書（厳封された原本）を受付期間内に持参してください。ただし、当該証明書（原本）が日本語又は英語以外の言語で作成されている場合は、事前連絡の上、「日本語又は英語訳文（コピー不可）」及び「出願資格審査調書」も提出してください。

【7月日程】受付期間：2026年5月7日（木）～5月15日（金）

【2月日程】受付期間：2026年10月26日（月）～11月6日（金）

受付時間：土日祝日を除く9時00分～12時30分及び13時30分～17時00分

(4) 出願資格審査の結果

【7月日程】2026年6月12日（金）に本人に通知を発送します。

【2月日程】2026年12月21日（月）に本人に通知を発送します。

(5) 出願手続

出願資格審査により大学卒業と同等の学力があると認められた者は、本募集要項に基づき、出願期間内に改めて出願手続を行ってください。

5. 出願

(1) 出願期間

【7月日程】2026年6月22日（月）～6月26日（金）

【2月日程】2027年1月8日（金）～1月15日（金）

(2) 出願方法

出願書類を前橋工科大学ホームページからダウンロード及び印刷し、必要事項を記入の上、出願書類提出用封筒に入れ、郵送又は持参により提出してください。

①郵送：速達の簡易書留とし、提出期間内必着

②持参：受付時間は、土日祝日を除く9時00分～12時30分及び13時30分～17時00分

【日本語又は英語以外の言語で作成された「証明書」で提出する場合】

事前連絡の上、各証明書と日本語訳又は英語訳（コピー不可）されたもの及び研究計画書（コピー不可）を書類提出用封筒に入れ、郵送又は持参により、次の受付期間内（必着）に提出してください。

①郵送の場合は、必ず速達の簡易書留で郵送してください。

②持参の場合の受付時間

土日祝日を除く9時00分～12時30分及び13時30分～17時00分です。

受付期間：【7月日程】2026年5月25日（月）～5月29日（金）

【2月日程】2026年11月24日（火）～11月30日（月）

なお、出願資格審査で提出済みの方は、提出不要です。

(3) 出願先

郵送：〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町460番地1 前橋工科大学 学務課入試広報係

持参：1号館1階 事務局学務課入試広報係 TEL：027-265-7361（学務課直通）

6. 入学検定料

入学検定料 30,000円

入学検定料の支払時は、別途、振込手数料がかかります。

一度納付された入学検定料は、次の①～⑤のいずれかに該当する場合を除き、どのような理由があっても返還しません。入学検定料の返還を受けようとする場合は、出願期間の最終日までに、学務課入試広報係に問い合わせてください（振込手数料は、本人負担となります）。

※以下の場合には本学から返還手続の案内を行います。

①二重に納入した場合

②入学検定料の納入後、出願手続をしなかった場合

③出願無資格者であることが判明した場合

④出願期間後に出願書類の提出があった場合

⑤出願に必要な書類を提出したが、出願が受理されなかった場合又は出願に必要な書類を提出しなかった場合

7. 出願書類

出願に必要な書類		作成方法等
①	入学願書	黒色のボールペン（消せるボールペンは不可。以下同じ。）で記入、又はパソコン等で作成し印刷してください。
②	受験票	縦4cm×横3cmの写真（正面上半身脱帽背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの）の裏に氏名を記入し、写真貼付欄に貼付してください。
③	写真票	
④	志望理由書	本募集要項の様式を踏まえたものであれば、パソコン等で作成したもので可とします。研究計画書には、指導教員の自署又は記名押印が必要です。
⑤	研究計画書	
⑥	身元保証書	外国籍の方は、提出してください。身元保証人の条件に該当する人が自筆で記入してください。

⑦	入学検定料納付証明書	<p>入学検定料は、『振込依頼書』を使用し、金融機関（ゆうちょ銀行は除く）の窓口で納入し、ATMやインターネットバンキングでは納入しないでください。入学検定料納入後、『入学検定料納付証明書』を貼付欄に貼付してください。受領印のないものは、受け付けできません。</p> <p>3. 出願資格・要件の「外国人留学生特別選抜の出願要件（2）①、③、④該当者」で出願する方は、「志願者氏名」欄に志願者本人の名前をパスポートに記載されている通り記入し、英語の名前表記とカタカナでのふりがなを必ず記入してください。「住所」欄には、代理人の住所を記入してください。</p>
⑧	成績証明書	<p>出身学校所定の用紙で作成された原本を提出してください。成績証明書にGPAの記載がない場合は、GPAが確認できる、出身学校が発行した書類を添付してください。</p> <p>なお、在学中の場合は、履修中の科目が記載されているものを提出してください。</p> <p>ただし、「証明書が1通しか発行されない」等の理由で原本を提出できない場合は、大使館等の公的機関で原本証明されたものを提出してください。なお、CHSIの日本代理機構又は中国高等教育学生信息网が発行する英語版成績証明書の原本も認めます。</p> <p>日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、自国の公的機関で証明した日本語訳又は英語訳を添付してください。（本学学務課においても原本証明の対応を行うことができます。）</p> <p>【学務課において原本証明を行う場合について】 事前に連絡の上、原本を持参し、厳封を受けた書類を出願時に提出してください。</p> <p>【7月日程】 受付期間：2026年5月25日（月）～6月19日（金）</p> <p>【2月日程】 受付期間：2026年11月30日（月）～12月18日（金） 受付時間：土日祝日を除く9時00分～12時30分及び13時30分～17時00分</p>
⑨	卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込み証明書	<p>出身学校所定の原本を提出してください。</p> <p>ただし、「証明書が1通しか発行されない」等の理由で原本を提出できない場合は、大使館等公的機関で原本証明されたものを提出してください。</p> <p>また、取得した学位の記載が無い場合は、学位取得に関する証明書も併せて提出してください。</p> <p>日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、自国の公的機関で証明した日本語訳又は英語訳を添付してください。</p>
⑩	学位授与証明書又は学位授与申請に係る証明書	<p>独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び授与見込みの者で出願する者は、⑨卒業証明書に代えて提出してください。</p>
⑪	前橋市の住民票の写し	<p>入学料の減免対象に該当する前橋市内居住者は、提出してください。</p> <p>なお、配偶者又は1親等の親族が前橋市内居住者の場合は、本人との関係性が分かる書類を併せて提出してください。</p>
⑫	国籍及び在留資格等を確認できる書類	<p>外国籍の者は、市区町村長の発行する「住民票の写し」（<u>国籍・在留資格、及び在留期間が明記されているもの</u>）を提出してください。</p> <p>3. 出願資格・要件の「外国人留学生特別選抜の出願要件（2）②、③該当者」は、パスポートのコピーを提出してください。</p>

⑬	<p>TOEIC®L&R及びS&W公式認定証又はTOEFL®公式スコアレポート</p> <p>※各選抜試験実施日から過去2年以内の成績に限る。</p>	<p>外国語(英語)試験で使用しますので、原本を提出してください。</p> <p>※TOEIC®L&R及びS&Wについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出後、写しを取り、受験票とともに返却しますが、返却時のトラブルに対するいかなる責任も、本学は負いません。 ・本学で実施したTOEIC®-IP (団体特別受験制度) のスコア票も公式認定証と同等として認めます。 ・TOEIC®S&Wのみの提出は不可です。 <p>※TOEFL iBT®について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場受験、Home editionのいずれのスコアも有効とします。 ・ ・受験者専用サイトより、下記の指定コードを選択し、スコアの直送を手配してください。 <p>(Institution (DI) コード : D 0 7 3、Department コード : 0 0)</p>
⑭	あて名票	<p>3. 出願資格・要件の「外国人留学生特別選抜の出願要件(2) ②、③該当者」で出願する方は、出願から入学手続まで責任を持って手続を行う日本に居住する代理人のあて名、あて先を記載し提出してください。</p>
⑮	日本語能力試験成績通知書のコピー	外国人留学生特別選抜で出願する方は、日本語能力試験の成績通知書のコピーを提出してください。
⑯	職務・研究経歴書又は卒業論文	社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜で出願する方は、「職務・研究経歴書」又は大学の「卒業論文」のいずれかを提出してください。
⑰	受験票返送用封筒	長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、出願する者の郵便番号、住所、氏名を明記し、定形郵便+速達分と簡易書留分の送付用切手を貼ったもの。なお、受験票を直接受け取る場合は、切手の貼付は、必要ありません。日本国内のあて先を指定してください。海外への送付は、致しません。
⑱	出願書類提出用封筒	提出書類送付用ラベルに、志望専攻・分野、差出人等の必要事項を記入し、角2封筒(33.2cm×24cm)にはがれないように糊付してください。

※ 原本が日本語又は英語以外で作成されている場合は、「原本」・「日本語又は英語で作成された訳文」をそれぞれ提出してください。翻訳を、本国の出身学校又は大使館などの公的機関(大使館等の政府関係機関や大学等の教育機関を指す)で行っていない場合は、内容が原本と相違ないことについて、本国の出身学校・大使館等の公的機関で証明を受ける必要があります。中国国内で発行された卒業証書及び成績表等の公証手続は、各地方の司法局に認定された公証処等で実施されます。

※ 出願書類は、原則として原本を提出してください(提出した出願書類は、返却いたしません。)

※ 証明書に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合は、戸籍抄本を添付してください。

※ 出願資格審査で一度提出している書類については、出願時に再度提出する必要はありません。

※ 出願書類について、「××年度」、「××月日程」に出願年度、日程を記載してください。

8. 選考方法

(1) 進学者選抜

コース	書類審査	面接	英語外部検定試験
社会基盤・環境 建築・デザイン 数理情報生命科学 生体・情報・システム工学 バイオテクノロジー	G P A、修得単位数、各研究室が定める主要科目※の成績を得点化します。	志望するコースに関する事項を中心にを行います。	TOEIC®L&R及びS&W公式認定証又はTOEFL®公式スコアレポートを得点化します。

※各研究室が定める主要科目については、15ページ以降の開設研究室一覧を参照してください。
(主要科目の成績は書類審査の評価対象ですが、出願資格ではありません。)

(2) 一般選抜

コース	書類審査	面接	英語外部検定試験
社会基盤・環境 建築・デザイン 数理情報生命科学 生体・情報・システム工学 バイオテクノロジー	出願書類に基づいて審査します。	志望するコースに関する事項及び各コースの専門分野に関する口頭試問を行います。	TOEIC®L&R及びS&W公式認定証又はTOEFL®公式スコアレポートを得点化します。

※口頭試問の分野は、「(5) 口頭試問分野」から出願時に選択してください。出願書類受付後の変更は認めません。(選択可能なコースのみ)

(3) 社会人特別選抜

コース	書類審査	面接	英語外部検定試験
社会基盤・環境 建築・デザイン 数理情報生命科学 生体・情報・システム工学 バイオテクノロジー	出願書類に基づいて審査します。	志望するコースに関する事項及び各コースの専門分野に関する口頭試問を行います。口頭試問の内容は、一般選抜と同様です。	TOEIC®L&R及びS&W公式認定証又はTOEFL®公式スコアレポートを、得点化します。

※口頭試問の分野は、「(5) 口頭試問分野」から出願時に選択してください。出願書類受付後の変更は認めません。(選択可能なコースのみ)

(4) 外国人留学生特別選抜

コース	書類審査	面接	英語外部検定試験
社会基盤・環境 建築・デザイン 数理情報生命科学 生体・情報・システム工学 バイオテクノロジー	出願書類に基づいて審査します。	志望するコースに関する事項及び各コースの専門分野に関する口頭試問を行います。口頭試問の内容は、一般選抜と同様です。	TOEIC®L&R及びS&W公式認定証又はTOEFL®公式スコアレポートを、得点化します。

※口頭試問の分野は、「(5) 口頭試問分野」から出願時に選択してください。出願書類受付後の変更は認めません。(選択可能なコースのみ)

(5) 口頭試問分野

コース	口頭試問分野
社会基盤・環境	「材料・構造」「地域計画」「地域環境整備」
建築・デザイン	建築系研究室：「建築計画・意匠」「建築環境・設備」「建築構造・材料」 デザイン系研究室：「情報メディアデザイン」「プロダクトデザイン」「空間デザイン」から1分野を選択
数理情報生命科学	「データ構造とアルゴリズム」「離散数学」「情報ネットワーク」「分子生物学」「バイオインフォマティクス」から3分野を選択
生体・情報・システム工学	「電気電子回路」「信号処理」「生体計測工学」「生理学・生体情報工学」「制御工学」から3分野を選択
バイオテクノロジー	「生化学」「微生物学」「植物生理学」「分析化学」「生物有機化学」「食品製造学」「食品栄養化学」から3分野を選択

9. 合否判定の方法及び基準

(1) 進学者選抜

書類審査、面接、英語外部検定試験により総合的に判定します。

(2) 一般選抜

書類審査、面接（口頭試問を含む）、英語外部検定試験により総合的に判定します。

(3) 社会人特別選抜

書類審査、面接（口頭試問を含む）、英語外部検定試験により総合的に判定します。

(4) 外国人留学生特別選抜

書類審査、面接（口頭試問を含む）、英語外部検定試験により総合的に判定します。

※上記(1)から(4)のいずれも、各選考方法のいずれかに著しく低い得点がある場合は、総合点の結果にかかわらず、不合格となる場合があります。

10. 試験日程

【7月日程】 2026年7月12日（日）10時00分から

【2月日程】 2027年2月7日（日）10時00分から

※控室には、9時00分から9時30分までの間に入室してください。

11. 試験会場

前橋工科大学（試験室等は、当日1号館受付で配付します。）

12. 合格発表

(1) 発表日

【7月日程】 2026年7月27日（月）

【2月日程】 2027年2月19日（金）

(2) 発表方法

合格者には、「合格通知書」及び「入学関係書類」を送付します。合格者の受験番号は、本学ホームページ(<https://www.maebashi-it.ac.jp>)に合格発表日の正午を目途に掲載しますが、合格通知書の送付をもって正式通知とします。

なお、合格通知証の国外への送付は致しませんので、通知の送付先には、日本国内のあて先を指定してください。

また、電話等による可否の問い合わせには、一切応じません。

※在留資格認定証明書交付申請書（所属機関等作成用）が必要な学生は、合格後、担当窓口にて作成を依頼してください。

(3) 試験後に受験票を紛失した場合の対応

受験票を紛失した場合は5.(3)の出願先に問い合わせのうえ、再発行の手続きを行ってください。電話やメールのみでの照会には応じません。

1 3. 入学手続

(1) 入学手続期間

【7月日程】2026年7月28日（火）～8月7日（金）まで

【2月日程】2027年2月23日（火）～3月5日（金）まで

(2) 入学手続方法

入学手続書類を「郵送」又は「持参」により提出してください。

①郵送：速達の簡易書留とし、提出期間内必着

②持参：受付時間は、土日祝日を除く9時00分～12時30分及び13時30分～17時00分

※郵送又は持参のいずれの場合も、上記期間に入学手続が完了しない場合は、入学辞退者として扱います。

(3) 入学手続先

「5. 出願 (3) 出願先」と同じ。

(4) 入学手続に必要なもの

①振込金受領書〔入学金〕【原本】：書類提出前に金融機関で納入してください。

②本学の受験票（又は合格通知書）

③入学手続案内で指示するもの

a) 誓約書（本学所定の用紙）

b) 学生調査票（本学所定の用紙）

c) カラー写真 2枚（縦4cm×横3cm。1枚は、学生調査票に貼付。）

d) 住民票の写し（本籍・続柄の表示は不問。マイナンバー（個人番号）の記載不要。）

※①及び②は、手続完了後に返却します。

※入学許可書の発行をもって、入学資格が発生します。

(5) 入学手続上の注意事項

①期間内に手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

②必要な書類が全て揃っていない場合は、受け付けませんので、書類の提出の際には、十分確認をしてください。また、入学手続期間を過ぎて到着した場合は、受け付けませんので、郵送の場合は、所要日数を十分に考慮して発送してください。

③入学金を納入した場合でも、入学手続に必要な書類は、所定の期日までに受け付けされていなければなりません。

④卒業（修了）見込み又は、学位授与見込みで出願・合格し、入学手続を完了した場合でも、2027年3月31日までに卒業（修了）又は学位授与されないことが判明した場合には、入学資格を失います。

⑤社会人特別選抜入試で出願及び合格した場合は、入学手続時に本学所定の在職証明書を提出していただきます。

⑥入学手続の完了後、やむを得ない理由で入学を辞退する場合は、直ちに本学に連絡し、2027年3月31日【必着】までに所定の入学辞退届を提出してください。

⑦一度受付をした入学手続書類及び納入された入学金は、原則として返還しません。ただし、次のア又はイのいずれかに該当する場合は、入学金を返還しますので、入学手続期間の最終日までに、学務課入試広報係に問い合わせてください。（振込手数料は、本人負担となります。）

ア 二重に納入した場合

イ 入学金の納入後、入学手続をしなかった場合

入学手続書類を受理しなかった場合は、本学から入学金の返還手続の案内を行います

⑧外国在住志願者の代理人が手続を怠ったために、本学に入学することができなくなった

場合も、本学は一切の責任を負いません。

1 4. 外国語(英語)試験

TOEIC® L&R 及びS&W又は TOEFL® の成績を換算し、外国語(英語)試験の得点とします。
提出書類について

TOEIC® (公開テスト) の TOEIC® L&R 及び S&W 公式認定証^{注1}、又は TOEFL® (TOEFL-iBT®) 公式スコアレポート^{注2} のいずれか1つを出願期間内に提出してください。選抜試験実施日から起算して2年以内に受験したものに限ります。

TOEIC®については、L&R 又は S&W のそれぞれの配点割合は、L&R : 80%、S&W : 20%です。ただし、TOEIC® S&W のみの提出は不可とします。

注1 本学で実施した TOEIC®-IP (団体特別受験制度) のスコア票も公式認定証と同等として認めます。

注2 実施機関の米国ETSから直接本学に送付された公式スコアレポート(Official Score Reports)のみ認めます。各入試日程の出願期間内に、大学にスコアが届かない場合には、出願不受理となり選考の対象外となります。

TOEFL-iBT®受験申込時にDIコードを所定欄に記入するか、すでに受験が終わっている場合は、米国ETSに送付手続きを行ってください。

大学でスコアを受領するまでに数週間必要な場合もありますので、余裕を持って送付手続きを行ってください。

(Institution (DI) コード : D 0 7 3、Department コード : 0 0)

1 5. 受験上の注意事項

- (1) 受験者は、試験開始の30分前までに、指定された試験室又は面接控室に入室し着席してください。
- (2) 面接試験においては、本要項「10. 試験日程」に記載された全体の開始時に不在であった場合には、欠席したものとして取り扱います。
- (3) 該当する試験を全科目受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- (4) 当日は、筆記用具を必ず持参してください。
- (5) 受験票は必ず持参し、面接控室の機の通路側の見えやすい場所に置いてください。
- (6) 試験当日、受験票を忘れた場合は、速やかに1号館1階事務局で受験票の再発行手続きをしてください。また、受験票は入学手続きの際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- (7) 試験中に使用を許可する物は、鉛筆(シャープペンも可)、消しゴム、鉛筆削り、時計(計時機能のみのもの)に限ります。
- (8) 試験室に入室後、携帯電話やスマートフォンの電源を切ってください。また、時計のアラーム等、音の出る機能も切ってください。
- (9) 試験室における受験者間の物品の貸借は一切認めません。
- (10) 昼食が必要な場合は持参し、自席で食事を取ってください。
- (11) 忘れ物がないように注意し、自分のゴミは持ち帰ってください。
- (12) 駐車場は、数が限られておりますので、できるだけ公共交通機関等をご利用ください。
- (13) 不測の事態等が生じ、試験実施が困難であると判断した場合は、試験を中止又は試験形態を変更することがあります。
- (14) 試験の実施に関して変更等がある場合は、本学ホームページに掲載しますので、試験前に確認してください。なお、このことに伴う受験者の個人的な損害については、本学は責任を負いません。

16. 遅刻者の扱いについて

- (1) 本人の責めに帰す理由による遅刻者の扱い
面接では、試験開始時に不在であった場合は、欠席したものとして取扱います。
- (2) 本人の責めに帰さない理由による遅刻者の扱い
 - ①公共交通機関の大幅な遅延による遅刻の場合は、受験を認めることがあります。この場合は、鉄道会社等から遅延証明書の発行を受けるとともに、試験場受付で係員に申し出てください。
 - ②公共交通機関の大幅な遅延が生じ、試験当日多くの受験生に影響があると本学が判断した場合、試験の実施に支障を来さない範囲で、全体の試験開始時間を繰り下げることがあります。ただし、このことに伴う受験生の個人的な損害については、本学は、責任を負いません。

17. 受験者心得

- (1) 試験時間中は、監督者の指示に従ってください。不正行為を行った者は失格とします。
- (2) 携帯電話やスマートフォン、スマートウォッチなどのウェアラブル端末は、アラーム機能を止めてから本体の電源を切り、かばんに入れ身に付けずにください。机の上に置けないものは、かばん等に入れ机の下に置いてください。試験時間中にかばん等の中で音などが発生した場合は、監督者が本人の了承を得ずに、かばん等を試験室外に持ち出し、試験場本部で当該試験時間終了まで保管します。
- (3) 座布団、ひざ掛けの使用を希望する場合は、試験開始前に挙手し、監督者の許可を得て使用してください。
- (4) 耳せんは、試験監督の指示等が聞き取れないことがあるので、使用できません。
- (5) 試験時間中に日常的な生活騒音等が発生した場合でも、救済措置は行いません。
- (6) マスクを着用している場合は、顔写真照合の際、一時的にマスクを外していただくことがあります。
- (7) 公正な入学試験の実施を妨げるような行為があったと認められる場合、当該年度の本学における全ての入学試験において不合格とします。
- (8) 試験時間中は退出することはできません。ただし、試験時間中に体調不良、トイレ等により、やむを得ず退出を希望する場合は、挙手をして監督者に知らせ、その指示に従ってください。
- (9) 面接が終了していない受験者が、面接が終了した受験者から面接の内容を聞くことや面接が終了した受験者が面接を終了していない受験者に面接の内容を教えることは、不正行為となり双方が失格となります。

18. 入学に係る経費

	前橋市内居住者（注1）	前橋市外居住者
入 学 料	141,000円	282,000円
授 業 料（年額）	535,800円（年2回に分けて納入）	
後 援 会 費	20,000円（学部在学時に後援会に入会している者） 30,000円（その他）	
同 窓 会 費	20,000円（学部在学時に同窓会に入会している者及び 前橋市立工業短期大学出身者は不要）	
学生自治会費	10,000円（本学出身者）	11,000円（他大学出身者）
災害傷害保険料	2,430円	

※授業料等は、改定されることがあります。

※入学検定料の支払時は、別途、手数料がかかります。

（注1）「前橋市内居住者」とは、入学する者、又はその配偶者、若しくは1親等の親族が2027

年4月1日において引き続き1年以上前橋市に住所を有している者（2026年4月1日から2027年4月1日までの間、前橋市に住民登録がある者）とします。

「前橋市内居住者」として入学料を納入した者は、入学後、2027年4月1日以降に取得した前橋市の住民票の写し（2027年4月1日以降に転出した者は、除票）を提出していただきます。前橋市内居住者の条件を満たしていないことが判明した場合は、差額を納入していただきます。

※研究生、科目等履修生は、本学出身者とはなりません。

19. 障がい等への配慮を必要とする入学志願者の事前相談

障がい等のある方が本学への入学を志願する場合で、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性があるときは、次のとおり、出願前に必ず連絡し、相談してください。また、相談期限後に不慮の事故等により身体等に障がいを負うこととなった場合も、速やかに相談してください。

(1) 相談期間

【7月日程】2026年5月25日（月）～5月29日（金）

【2月日程】2026年11月24日（火）～11月30日（月）

(2) 相談方法

事前に本学学務課入試広報係（直通：027-265-7361）まで電話連絡し、本学所定の相談申請書（住所・氏名・性別・連絡先・志望専攻（コース）・障がいの状況・受験上、修学上特別な配慮を希望する事項・出身学校等で取られていた特別措置を明記してください。）、診断書等の必要書類を提出してください。必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面談を行います。

(3) 連絡・提出先

「5. 出願（3）出願先」と同じ。

20. 個人情報の取扱い等

本学では、提出された書類及び入学試験の実施により志願者の個人情報を取得しますが、これらの個人情報については、関係法令を遵守し、次の目的以外には利用しませんのであらかじめご了承ください。

(1) 入学者の選抜及び入学手続業務を行うために利用します。

(2) 統計資料の作成や今後の入学者選抜方法の検討資料を作成するために利用します。

(3) 入学者の個人情報は、教務関係、学生支援関係及び授業料徴収業務関係の業務を行うために利用します。また、本学関連団体である前橋工科大学後援会、前橋工科大学同窓会及び前橋工科大学学生自治会において、各団体の運営に必要な事項のみ利用します。

なお、本学が上記の業務を行うに当たり、外部の事業者へ委託することがあります。

その際の個人情報は、上記（1）～（3）に基づき、適切な取扱いをすることとし、業務終了後は速やかに破棄する契約を締結します。

外国在住の志願者は、日本に在住して志願者をよく知っている人（代理人）を通じて出願してください。代理人は、検定料の納入、出願、合格発表、入学金の納入を含め、入学手続まで関わることとなりますので、外国在住の志願者は、代理人となる人に必ず了解を得てください。また、各種あて先は、代理人等の住所となります。

2 1. 前橋工科大学へのアクセス

- バス JR前橋駅北口4番のりばから約10分「前橋工科大前」下車
- タクシー JR前橋駅から約10分
- 徒歩 JR前橋駅から約45分

Google マップへのリンク



博士前期課程開設研究室一覧

【社会基盤・環境コース】

研究室名	職名	教員名等	研究内容	主要科目
建設材料化学 研究室	教授	さがわ たかひろ 佐川 孝広 E-mail: sagawa @maebashi-it.ac.jp	各種コンクリート混和材料を、適材適所の概念で最大限に利活用するための技術開発に関する研究を行う。精緻な水和反応解析に基づき水和機構、硬化体特性を解明することで、既存材料の最適な設計法を確立したり、新規材料の開発・実用化を目指した研究を行う。	土木構造力学 I コンクリート工学 I 地盤工学 I 水理学
循環システム 研究室	教授	たなか つねお 田中 恒夫 E-mail: t-tanaka @maebashi-it.ac.jp	水環境問題の地域性、固有性および多様性等を概観し、その地域に最適な対策を見出すための工学的手法について検討する。流域管理や水質制御に関して、予防的・順応的原則や共生原理等に基づく、持続可能な地域循環システムについて研究する。	構造力学基礎 地盤工学 I 水理学 防災工学
地域・交通計画 研究室	教授	もりた てつお 森田 哲夫 E-mail: tmorita @maebashi-it.ac.jp	地域・交通計画を立案するためには、都市の成り立ちや人の行動・意識を把握し、問題・課題を定量的に分析する必要がある。本研究室では、都市の問題・課題に対応するため、1)定量的な予測・評価に基づく都市・交通計画、2)調査データを用いた生活・行動分析、3)総合的な都市環境評価、4)地域や市民参加による都市計画策定プロセスに関する研究に取り組む。	構造力学基礎 水理学 地盤工学 I 防災工学
コンクリート 研究室	准教授	したま こういちろう 舌間 孝一郎 E-mail: shitama @maebashi-it.ac.jp	近年の社会資本構造物の劣化問題を解決するために、新設鉄筋コンクリート構造物の高耐久化への取り組み支援、既設鉄筋コンクリート構造物の効率的な維持管理手法の開発、を主要な研究分野としている。さらに、高性能コンクリート材料の開発とプレキャスト部材や特殊コンクリートへ展開する研究を行っている。	構造力学基礎 土木構造力学 I コンクリート工学 I 地盤工学 I
水工学 学室	准教授	ひらかわ りゅういち 平川 隆一 E-mail: hirakawa @maebashi-it.ac.jp	地表水や地下水を対象として、水の流動・物質移動・生態系への影響について研究する。それらの基礎学理を室内実験や現地観測および数値シミュレーションにより解明し、人間活動とのバランスのとれた流域環境について研究する。	構造力学基礎 土木構造力学 I 水理学 地盤工学 I
構造力学 研究室	准教授	みやがわ むつみ 宮川 睦巳 E-mail: miyagawa @maebashi-it.ac.jp	被災構造物の深刻な損傷を限定的なものにとどめる技術と、その損傷を災害直後に短時間で把握し、健全性を評価するための技術は都市機能を維持するうえで急務な課題である。これらの課題解決に向けて、弾性学、破壊力学などの基礎研究および機能性材料を用いた研究を行う。	構造力学基礎 土木構造力学 I コンクリート工学 I 地盤工学 I
防災地盤工 学研究室	准教授	もり ともひろ 森 友宏 E-mail: mori @maebashi-it.ac.jp	自然災害の防止、および、被害の低減を図るために、地盤の物理・力学的特性(特に不飽和土に関する特性)に基づいた災害発生の予測手法、防災技術の研究を行う。また、自然災害の発生予測結果を適切に国民に周知する手法、および、予測結果を用いたリスクコミュニケーションに関する研究も併せて行う。	構造力学基礎 水理学 地盤工学 I 防災工学

【建築・デザインコース】

研究室名	職名	教員名等	研究内容	主要科目
構造工 学 研 究 室 (建築系研究室)	教授	あさり てつひろ 麻里 哲広 E-mail: asari @maebashi-it.ac.jp	美しい建築物の裏には構造工学に関する高度な理論や技術が存在している。地震大国である日本においては構造工学の発展が日々の安心・安全を支えている。そこで、生命・財産・文化の保全、都市機能を維持する防災機構、環境負荷の低減を目指した構造工学理論を発展すべく、数値解析等の研究を行う。建物の力学挙動を把握し、先端的な建築構造の実現を図ること、および都市・建築の安全性向上を目標とする。	構造力学基礎 建築構造力学Ⅰ 鋼構造Ⅰ 鉄筋コンクリート構造Ⅰ
プロダク ト デ ザ イ ン 研 究 室 (デザイン系研究室)	教授	えもと きくお 江本 剛夫 E-mail: emoto @maebashi-it.ac.jp	人々の関心がモノよりも体験、知識、人間関係といったソフトに移っている。不要な消費を減らし持続可能な社会を実現するために歓迎すべき流れである。プロダクトはシステムやサービスと一体で機能するようになり、モノとコトの境界が曖昧になりつつある。この変革の時期に、コンセプト創案からビジュアル化、具現化を専門とするプロダクトデザインは、モノのデザインに留まらず、社会システムと一体となった提案を研究している。	工学デザイン実習Ⅰ 工学デザイン実習Ⅱ 工学デザイン実習Ⅲa~c 工学デザイン実習Ⅳa~c
鉄筋コンクリート系 構 造 研 究 室 (建築系研究室)	教授	きたの あつり 北野 敦則 E-mail: kitano @maebashi-it.ac.jp	鉄筋コンクリート(RC)系構造におけるせん断抵抗性能評価法は、理論的に未解明な点が多い。そこで、RC構造やコンクリート系合成構造(鋼コンクリート構造)を対象とし、部材のせん断設計法や耐震性能評価法について、実験的検討および解析的検討を行う。特に、鋼コンクリート合成構造については、その接合部の構成は複雑となることから、応力伝達機構を考慮した合理的な接合部の開発や合理的設計法について研究を行っている。	構造力学基礎 建築構造力学Ⅰ 鋼構造Ⅰ 鉄筋コンクリート構造Ⅰ
空間デザイン 研 究 室 (建築系研究室)	教授	こまだ たけし 駒田 剛司 E-mail: komada @maebashi-it.ac.jp	建築と都市の豊かな関係を再発見することで新たなデザイン方法論を開発する。 建築を都市から自律したものと捉える近代建築的な文脈では捕捉しきれない、両者をまたぐ領域の形論的な特徴を明らかにする。 パナキュラーな街路空間を形成する形態的要素の抽出とその分析。	建築都市プログラム 建築設計基礎 建築設計Ⅰ 建築設計Ⅱ 建築史Ⅰ 工学デザインプログラム 工学デザイン実習Ⅱ 工学デザイン実習Ⅲa 工学デザイン実習Ⅳa
プロダクト×CMF デ ザ イ ン 研 究 室 (デザイン系研究室)	教授	なかじま ようこ 中島 陽子 E-mail: yoko.nakajima @maebashi-it.ac.jp	本研究室では、プロダクトデザインにおけるCMF分野(色・素材・表面処理)を軸に、製品価値を生み出す仕組みを研究する。感性と工学をつなぎ、ブランドイメージやユーザー体験との関係性を分析する。デザインの現場で培われたスキルやデザイン思考を基盤に、事例分析や先行研究を通じて要因の整理・抽出を行い、さまざまなデザイン対象において検証を進めることで、CMFデザインによる価値創出の方法論を構築する。	工学デザイン実習Ⅰ 工学デザイン実習Ⅱ 工学デザイン実習Ⅲa~c 工学デザイン実習Ⅳa~c
建築設 備 研 究 室 (建築系研究室)	教授	みたまら てるあき 三田村 輝章 E-mail: mitamura @maebashi-it.ac.jp	これからの建築には、快適性を確保しつつ、省エネルギーを実現することに加えて、温熱環境や空気質に関する健康性も要求されている。そのため、建物内における室内環境の実態把握や自然エネルギー利用の建築手法・設備の性能評価が重要となってくる。実建物における室内温湿度、室内空気質、エネルギー消費量の実測調査のほか、建物内の熱・空気環境に関する数値シミュレーションによる研究を行っている。	建築環境工学Ⅱ 建築設備Ⅰ 空気環境学 建築環境実験
建築意匠・ 建築設計・ 空間デザイン 研 究 室 (建築系研究室)	准教授	いしぐる ゆき 石黒 由紀 E-mail: isg @maebashi-it.ac.jp	人々が日常を営むまちや都市、建築、生活空間は、具体的な形態や形式、スケールをもつと同時に、場所性や風景のような人が生きていく根源にも関わる性格をもっている。それら双方の魅力や背後にある原理や体系について、リサーチや実測、文献調査等を通して、社会、文化、歴史、美学などの観点より分析し、テクノロジーや環境などの様々な領域との関係の中で批評的に研究する。研究で得られた認識をもとに、新しい建築やまちの環境をデザインする方法を具体的に提案し、実践的な活動を通して建築の可能性として世に問う。	建築都市プログラム 建築設計基礎 建築設計Ⅰ 建築設計Ⅱ 建築史Ⅱ 工学デザインプログラム 地域文化論 工学デザイン実習Ⅱ 工学デザイン実習Ⅲa

研究室名	職名	教員名等	研究内容	主要科目
建築史研究室 (建築系研究室)	准教授	うすい けいたろう 臼井 敬太郎 E-mail: usui@maebashi-it.ac.jp	建築の歴史に着目し、対象の建築のみならず、関わった人々の営為や思想について研究を行なっている。とりわけ、日本とイタリアにおける近代主義建築の受容と普及の過程に注目している。研究を通して得られた知見について、今日において再読すべき文化的資源として、これからの建築像を描くための素材として、積極的に活用することも重要な課題である。	建築都市プログラム 地域文化論 建築設計 I 建築史 I 建築史 II 工学デザインプログラム 地域文化論 工学デザイン実習 I 工学デザイン実習 II 工学デザイン実習 IIIa
都市計画・地域計画研究室 (建築系研究室)	准教授	からしま かずき 辛島 一樹 E-mail: k-karashima@maebashi-it.ac.jp	長期的人口減少社会や自然災害リスク等を考慮した、安全、安心かつ持続可能な都市構造の実現、広域計画・広域連携の推進、にぎわいのあるまちなか空間の実現、その他喫緊の社会的課題等について、歴史や風土、文化等を踏まえたうえでの調査分析に基づき、計画論の提案、計画支援の在り方について研究する。その手段として、積極的に今後の将来を担う技術の活用を試みる。	建築計画 I 建築計画 II 建築設計 I 建築設計 II
情報伝達デザイン・ユニバーサルデザイン研究室 (デザイン系研究室)	准教授	くわはたけん 桑波田 謙 E-mail: kuwahata@maebashi-it.ac.jp	人間の感覚や身体特性に基づいた情報伝達、およびユニバーサルデザインの研究を行っている。特に視覚障害者の移動支援に焦点を当て、情報メディアの視認性、白杖を介した床材の触覚識別性、音サインの効果などを工学的な視点から分析し、視覚、触覚、聴覚を統合した「多感覚情報」による新たな誘導手法を提案している。また、研究成果を公共空間のサイン計画をはじめ、空間デザインやプロダクトデザインへと応用し、実験と検証に基づく科学的アプローチによって、誰もが安全かつ円滑に移動できる環境の構築を目指している。	工学デザイン実習 I 工学デザイン実習 II 工学デザイン実習 IIIa～c 工学デザイン実習 IVa～c
建築サステナブル構造工学研究室 (建築系研究室)	准教授	さとう りょうすけ 佐藤 良介 E-mail: r-sato@maebashi-it.ac.jp	「持続可能な社会」の実現が求められている。建築分野において考えやすい世界共通の開発目標として、「住み続けられるまちづくり」などが挙げられるが、地球人口が急増している一方で日本は少子高齢化を伴う人口減に直面している。世界的な課題・日本ならではの課題の双方に「環境配慮型材料」や「プレキャスト構造」等に対応することに備え、これらの採用が部材の構造性能に及ぼす影響などについて研究している。	構造力学基礎 建築構造力学 I 鋼構造 I 鉄筋コンクリート構造 I
環境・都市デザイン・ランドスケープ・アーキテクチャ研究室 (デザイン系研究室)	准教授	すぎうら きかえ 杉浦 榮 E-mail: sugiura@maebashi-it.ac.jp	人の生存は環境に依存し、環境は人を含む諸生物のあり様によって変化する。環境と人の相互連鎖のなかで、どのように生存の場を獲得し、多様な関係性を保つ空間を創造し、持続していけるのか？という人類の根源な課題とむきあい、帰納的かつ文脈的な視野から、建築・都市・地域等のあり方を思考する。空間次元と時間軸の双方から、次代につながる場の創造について、実践的な立場から研究する。	建築都市プログラム 建築設計 I 建築設計 II 建築設計 III 環境デザイン 工学デザインプログラム 工学デザイン実習 II 工学デザイン実習 IIIa～c 工学デザイン実習 IVa～c 建築情報 II
建築生産研究室 (建築系研究室)	准教授	つつみ ひろき 堤 洋樹 E-mail: tutumi@maebashi-it.ac.jp	建物の維持管理についてソフト・ハードの両面から実験・調査を行い、建物の長寿命化を実現する適切な管理手法のあり方について検証を行っている。本年度は主に、建物の平均寿命に関する研究、公共施設マネジメントの手法に関する研究、既存建物の劣化及び管理状況に関する調査、木造大壁の非破壊検査手法に関する研究、長期優良住宅の維持保全計画に関する研究を行っている。	建築材料 建築構法 建築構造力学 I 建築施工
クラフトデザイン研究室 (デザイン系研究室)	准教授	なかじま おさむ 中島 修 E-mail: nakajima-osamu@maebashi-it.ac.jp	今日的な地域課題である地域移住、地域再生、ワークライフバランスといった問題に対し、デザインとフィールドワークの実践を通じた知識創造を目指す。その手掛かりとして、とりわけ「クラフト」に着目し、身体化され、モノを媒介として共有・継承される知識として捉えることで、人々の経験や実践がいかんして生活環境や文化的文脈の知へと展開されるのかを探究する。	工学デザイン実習 I 工学デザイン実習 II 工学デザイン実習 IIIa～c 工学デザイン実習 IVa～c
環境音響工学研究室 (建築系研究室)	准教授	よねむら みき 米村 美紀 E-mail: yonemura@maebashi-it.ac.jp	音は、情報伝達の媒介あるいは騒音として我々の活動に常に影響を及ぼしている環境要素であり、空間の安全性や快適性を実現するためには音の適切な制御が必要である。本研究室では、屋内外の音環境について、快適な音環境の目標とその制御方法を提案することを目的とし、音の物理現象への理解や聴覚・心理学の知識に基づき、計測や実験室実験による研究を行う。	環境の科学 建築環境工学 I 建築環境工学 II 建築設備 I

【数理情報生命科学コース】

研究室名	職名	教員名等	研究内容	主要科目
理論計算機科学研究室	教授	とよやま ひろあき 遠山 宏明 E-mail: tohyama@maebashi-it.ac.jp	理論計算機科学とは、コンピュータをチューリング機械などにより数理解モデル化し、コンピュータ自身を数学的に解析する学問である。主な研究テーマは、①問題を解く際に必要とする時間量や記憶域量を解析し、計算の限界を追究する計算量理論に関する研究、②問題を解くための具体的な算法の考案や算法の解析を行うアルゴリズム理論に関する研究、③量子力学的な重ね合わせにより並列計算を実現する量子コンピュータや量子情報に関わる基礎理論の研究などを行っている。	数理論理学 計算機構成 離散数学・同演習 データ構造とアルゴリズム
タンパク質情報研究室	教授	ふくち さとし 福地 佐斗志 E-mail: sfukuchi@maebashi-it.ac.jp	現代生物学では大量の情報が生み出されデータベースに収録されている。これらの情報を解析し、生命現象理解につながる知見を見いだすことは生命科学の重要な課題であるが、データの量が膨大であるため、コンピュータの使用は不可欠である。本研究室では、ゲノム・タンパク質を中心にこれらデータベースに収録された情報の計算機による解析・データベースの開発等を通じ、新たな知見を得ることを目指している。	プログラミング言語・演習 統計学演習Ⅰ プログラミング言語・演習Ⅱ 分子生物学の基礎
ネットワークセキュリティ研究室	教授	みかわ けんじ 三河 賢治 E-mail: mikawa@maebashi-it.ac.jp	離散数学を基礎として、ネットワークセキュリティを中心に問題を解決するアルゴリズム、情報システムの研究開発を行う。最近の研究では、ネットワーク上の危険な通信を特定したり、膨大なデータから特定の 패턴を抽出したり、探索アルゴリズムの高速化に注力している。また、技術的なセキュリティ対策だけでなく人的セキュリティの確保を目的に安全な情報システムの研究開発を進める。	離散数学・同演習 データ構造とアルゴリズム オートマトンと形式言語 計算理論
システム生物学研究室	准教授	せきぐち たつや 関口 達也 E-mail: sekiguchi@maebashi-it.ac.jp	生物の持つ制御機構に関する研究を行っている。そのために、細胞内の代謝過程に伴う酵素反応のシミュレーションと、実験データの検証を行うことができるソフトウェアの開発を行っている。また、開発したソフトウェアを用いて、微生物によるアルコール発酵の代謝過程の調査や、様々な種類の化学物質の効率のよい生産を目指した人工代謝経路の設計を行っている。	プログラミング言語・演習 プログラミング言語・演習Ⅱ プログラミング言語・演習Ⅲ データ構造とアルゴリズム
情報システム研究室	准教授	とみさわ まさき 富澤 真樹 E-mail: tomisawa@maebashi-it.ac.jp	情報システムと計算機科学の研究をしている。情報システムとは、人を中心とする社会環境と多様な情報の接点にある課題を解決する仕組みであり、高い個性性と一回性を有している。これまで開発した情報システムは、VAEGANを用いた仮想試着システム、MediaPipeを使った療育ゲーム、拡張現実を使った学習教材システム、感情合成音声による昔話の読み上げシステムなどである。計算機科学の研究では、情報システムの要素技術に繋がるような分野を扱う。これまでに扱った分野は、自然言語処理、強化学習、深層学習、最適経路問題などである。	数理論理学 計算機構成 離散数学・同演習 データ構造とアルゴリズム
生体分子ダイナミクス研究室	准教授	ゆう いっせき 優 乙石 E-mail: yu@maebashi-it.ac.jp	細胞内は膨大な生体分子がひしめき合い複雑に相互作用している。極めて複雑した細胞内で分子がいかに動き機能を発現しているかは生命科学の大きな謎である。本研究室では細胞内の生命現象を、生体分子の立体構造やダイナミクスから分子レベルで研究する。手法は主に計算機による分子シミュレーションを用い、必要に応じて情報科学的手法も用いる。研究を通じてソフトウェア開発や、細胞環境を考慮した創薬方面への応用を目指す。	プログラミング言語・演習 プログラミング言語・演習Ⅱ プログラミング言語・演習Ⅲ データ構造とアルゴリズム

【生体・情報・システム工学コース】

研究室名	職名	教員名等	研究内容	主要科目
神経科学 研究室	教授	いしかわ やすゆき 石川 保幸 E-mail: yishikaw @maebashi-it.ac.jp	高次脳機能を理解する上で必要となる神経生理学の基礎から解剖学的視点を中心に実験を実施する。実験動物の取扱いに習熟し、脳スライスおよび個体レベルからの電気的活動の記録が独力で可能になることを目指す。さらに、脳機能、特に脳の可塑性および行動を計測解析する方法を学ぶ。	医工学プログラム 電子回路 生体計測工学 信号処理 機能解剖学 生物応用プログラム 分子生物学 生化学 細胞生物学 プログラミング言語・演習
情動感性生理学 研究室	教授	しゅとう ふみひろ 首藤 文洋 E-mail: fshutoh @maebashi-it.ac.jp	こころを情動や感性に基づく生物現象として捉え、発現機構をヒト対象実験と単純化で構築したモデル動物実験により解析する。ヒト対象実験では脳電位計測や筋電位計測および自律神経反応計測等を、動物実験では組織学、電気生理学、生化学による解析を必要に応じ組み合わせ、情動や感性の脳機能に効果がある感覚刺激による生体反応を取得・分析する。	機能解剖学 情報・生命基礎実習 生理学実習 生体計測工学
リモートセンシング 研究室	准教授	あらい たけひこ 荒井 武彦 E-mail: araitakehiko @maebashi-it.ac.jp	惑星探査機に搭載する地質・生命探査用の観測(リモートセンシング)機器の開発を行う。また、月面探査用の歩行ロボットやローバを開発する。実際に開発した装置で惑星を観測し、データ解析を行って、惑星や地球、生命の起源や進化の過程を明らかにする。	プログラミング言語・演習 データサイエンス概論 微分積分学 I 線形代数 I
生体機械 システム 研究室	准教授	あんど のりやす 安藤 規泰 E-mail: ando @maebashi-it.ac.jp	生物の動きのメカニズムを解明し、「生き物らしい」しなやかで適応的、かつ親しみもてる動きの工学的再現を目指す。脳・神経系、身体の構造、そして生物を取り巻く環境の三点から「動き」を解釈し、生物は「何をどこまで制御しているのか」という問いに答えるべく研究を進めている。また生物機能の応用を目指し、生物模倣に限らず、生物機能の制御による直接利用についても具体的な検討を行い、生物と機械が融合したプロダクトの可能性についても研究を進める。	生理学実習 電気回路 電子回路 信号処理
神経電子計測 システム 研究室	准教授	おだ が き まさと 小田垣 雅人 E-mail: odagaki @maebashi-it.ac.jp	経頭蓋磁気刺激法や機能的核磁気共鳴画像法等の脳機能計測手法により運動生成に関する脳機能メカニズムを解明する。また、歩行運動中に経頭蓋磁気刺激法の利用を可能にする刺激部位を推定するシステムの開発を行う。これらの要素技術を応用して、新しいリハビリテーション手法や運動機能評価法の確立を目指している。	情報・生命基礎実習 医工学プロジェクト 電気・電子回路実習 生理学実習

【バイオテクノロジーコース】

研究室名	職名	教員名等	研究内容	主要科目
生体情報解析研究室	教授	すがわら かずはる 菅原 一晴 E-mail: kzsguga @maebashi-it.ac.jp	生体内における情報伝達には種々の生体分子が関与しており、その相互作用を評価する研究を進めている。特に、細胞表面に存在する糖鎖の分子認識機能やタンパク質間結合に着目し生物の新しい側面を切り開く試みを行っている。また、細胞外マトリックスを生体分子の反応場とした人間と環境にやさしいバイオセンサを構築し、臨床検査への応用を目指している。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ
微生物工芸研究室	教授	はやし ひでのり 林 秀謙 E-mail: h-hayashi @maebashi-it.ac.jp	有用な新規微生物の分離および同定を行っている。具体的には植物バイオマスを分解可能な新規好熱嫌気性細菌の分離および同定、植物由来の新規乳酸菌の分離を行っている。また、ヒトの腸内より分離した新規細菌の機能性解析も行っている。	微生物学 生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅳ
ゲノム生物学研究室	教授	やました さとし 山下 聡 E-mail: syamashi @maebashi-it.ac.jp	細胞が情報を記録しているゲノムおよびエピゲノムの異常について研究を進める。ゲノムおよびエピゲノムの異常の解析方法の開発、疾患(主に癌)の臨床的性質に関連する異常の同定、異常を発生あるいは抑制させる物質の探索やメカニズムの生化学的解析、ゲノムおよびエピゲノム情報からのデータマイニングなどを行い、人々の健康な生活に貢献することを目指す。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ
分子生命科学研究室	准教授	かたやま しょういち 片山 将一 E-mail: s-katayama @maebashi-it.ac.jp	疾患モデル細胞および個体を用いて、遺伝子疾患の発症機構を分子レベルで解明することを目指す。特に、細胞内シグナル伝達のキープレイヤーであるプロテインキナーゼによるリン酸化機構と疾患発症との関係を、主要な研究課題としている。さらに、臨床診断ツールや組み換え医薬品の開発にも取り組んでいる。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ
食品材料科学研究室	准教授	すぎやま りゅうじ 杉山 立志 E-mail: sugiyama.ryuzi @maebashi-it.ac.jp	食品は原材料に由来する特有の物性をもつ。パラフィン切片などを用いて内部構造を観察し、成分分析やRNA発現解析によって各成分の合成部位や制御機構を明らかにする。また、クリーブメータを用いて素材間の違いや加工前後の強度を測定し、内部構造との関連性を検証する。これらの知見を統合することで、食事の楽しさを高める素材や新しい食品を開発する。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ
植物分子育種工芸学研究室	准教授	なかやま あきら 中山 明 E-mail: aknakaya @maebashi-it.ac.jp	植物には、周囲の様々な環境に対して高度に適応する能力が備わっている。当研究室では、このような植物の環境応答について、遺伝子レベルでメカニズムを解析し、植物に新たな特性を付与するための基盤作りとなる研究を行う。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ
微生物分子機能研究室	准教授	はちすか しんいち 蜂須賀 真一 E-mail: s-hachisuka @maebashi-it.ac.jp	世の中には、環境に適応して進化してきた多様な微生物が存在するが、その機能の多くは未解明である。本研究室は、微生物の分子レベルでの機能解明とその応用を目的とする。特に、環境調和型材料に着目し、プラスチック分解機構の解析や、遺伝子工学・代謝工学を活用した微生物によるものづくりの研究を推進し、持続可能な社会への貢献を目指す。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ
生物機能化学研究室	准教授	ほし ひろこ 星 淡子 E-mail: hihoshi @maebashi-it.ac.jp	生物資源が有する機能性を利用した高付加価値生体高分子材料の創製と機能性の評価を生化学、分子生物学的手法を用いて行う。また、生体内の恒常性破綻により引き起こされる疾患の病態を改善及び予防することが可能な機能性食品や物質の効果を検討する。作用機序を解明することで科学的根拠に基づいた治療、予防方法の確立を目指す。	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅲ 生物工学実験Ⅳ